

令和5年度

栗石町コミュニティ・スクール

実践報告書

ふるさと栗石への誇りと愛着を育てる教育

～ 社会総がかりでの子育ての実現～



(アーチェリーしずくちゃん)

令和6年3月

栗石町教育委員会

目 次

雫石型コミュニティ・スクールの推進について・・・・・・・・・・	1
令和5年度雫石町コミュニティ・スクール推進事業・・・・・・・・	2
令和5年度雫石町コミュニティ・スクール成果と課題・・・・・・・・	3
令和5年度雫石町コミュニティ・スクール研修・・・・・・・・・・	4～5
令和5年度雫石町コミュニティ・スクール意見交流会・・・・・・・・	6

【令和5年度各学校の取り組み】

雫石町立雫石中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7～14
雫石町立雫石小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15～20
雫石町立七ツ森小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21～25
雫石町立西山小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26～33
雫石町立御明神小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34～41
雫石町立御所小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	42～46
雫石町 CS 意見交流会発表資料（雫石中学校）・・・・・・・・・・	47～53



七ツ森小学校のおきなぐさ

「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の一体的な取り組みによる

雫石型コミュニティ・スクールの推進

雫石町では、令和3年度4月より、「開かれた学校」づくりを目指す学校評議員制度から「地域とともにある学校」づくりを目指す学校運営協議会制度に移行した。本年度で3年目となった。

各学校に学校運営協議会を設置し、学校運営についての話し合いを行った。また、地域と学校がWIN&WINの関係を目指す地域学校協働活動に取り組んでいる。地域と学校が一体となってコミュニティ・スクールの推進している。

現在、本町では、「ふるさと雫石への誇りと愛着を育てる教育」の実現に向けて教育諸政策を展開している。これは、現在の本町児童生徒の特色である「地域への愛着の高さ」や「地域活動への参加意欲」、「規範意識の高さ」といった「良さ・強み」を一層生かしながら、数十年後に地域で貢献できる児童生徒を育成しようとするものであり、「雫石型コミュニティ・スクール」は子どもたちの良き原体験としても、大きく役立つとともに具体が見える地域活動を実感し、地域への意識や愛着が一層高まっている。

今年度は、2回のコミュニティ・スクール研修会と意見交流会、大槌町への視察研修を実施して、各学校の学校運営委員等のコミュニティ・スクールへの理解を深め、「コミュニティ・スクール通信」(1号～15号)を発行し、町民に向けての周知活動を行った。



よしゃれ祭りでの雫石中生



牛の乳しぼり体験をする西山小児童



学区内の植樹式に参加をする西山小児童

令和5年度雫石町コミュニティ・スクール推進事業

1. 事業の目的

「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の一体的な取組みによる雫石型コミュニティ・スクールの推進。

2. 学校運営協議会制度

令和3年度より、「開かれた学校づくりを目指す学校評議委員会制度」から「地域とともにある学校づくりを目指す、学校運営協議会制度」に移行した。

各学校運営協議会において学校運営協議会を設置し、学校運営に参画していただける地域の方々を委員として委嘱し、地域と一体となってコミュニティ・スクールを進める、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5に規定されている下記のことについて協議を行う。

- ① 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- ② 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる
- ③ 教職員の任用に関して、教育委員会で定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる。

3. 学校運営協議会

(1) 主な内容

第1回学校運営協議会（委員委嘱・学校運営方針承認・年間計画・地域学校協働活動の計画）

第2回学校運営協議会（上半期の学校評価・コミュニティ・スクール研修・地域学校協働活動）

第3回学校運営協議会（次年度学校運営方針承認・学校評価・次年度計画・地域学校協働活動）

(2) 実施日

学 校 名	第1回学校運営協議会	第2回学校運営協議会	第3回学校運営協議会
雫石小学校	5月23日15:00～	12月6日15:00～	2月15日15:00～
七ツ森小学校	6月8日10:00～	11月24日10:00～	3月7日10:00～
西山小学校	6月1日13:30～	11月8日13:00～	2月13日13:20～
御明神小学校	5月15日18:00～	10月21日11:40～	2月26日15:45～
御所小学校	6月1日18:00～	11月12日18:00～	2月16日13:10～
雫石中学校	5月24日14:00～	11月29日14:00～	2月19日14:00～

4. 地域学校協働活動

地域と学校が熟議を通して目標を共有しながら、従来の地域による学校支援だけではなく、地域にも学校にもメリットがあり、WIN & WINの関係の「地域とともにある学校」を目指す。

そのために、教育委員会内に地域学校協働活動推進員1名を配置し、社会教育指導員とともに地域と学校の協働を推進する。

5. 雫石町コミュニティ・スクール（CS）成果と課題

(1) 成果

- ① 学校運営協議会を各学校で年間 3 回実施した。委員による学校経営重点の承認や学校経営の評価を行った。学校経営の課題解決に向けた話し合いも行われた学校もあった。各委員からの意見も多く出されるようになり協議会が活発になってきた。
- ② 学校運営協議会委員研修会を 2 回実施し、CS 意見交流会を開催した。
第 1 回目は、6 月 16 日（金）秋田県大館市立釈迦内小学校の 佐藤潔 校長を招聘して、地域学校協働活動の具体的な取組みを学んだ。
第 2 回目は、10 月 25 日（水）大槌学園を訪問して大槌町の CS 実践活動を見学してきた。岩手県 CS 協議会長の松橋教育長から説明をいただく。
CS 意見交流会は町内 6 校の実践活動を発表して、佐藤潔校長の助言をいただく。
- ③ 今までで行われてきた地域連携や地域の学校支援がより活発になった。
- ④ 地域住民が学校に足を運ぶ機会が多く、地域と学校の交流が活発になる学校もあった。
- ⑤ 地域に積極的に出て地域住民と交流する学校もあった。

(2) 課題

- ① 学校運営協議会での話し合いを充実させるためにも委員や教職員の研修の充実。
- ② 地域学校協働活動は地域住民と学校の「熟議」で、「何が必要か」「何ができるかを」を自由に話し合い、目標共有をしたい。
- ③ 地域と学校の関係は学校支援が多く、そこから地域学校協働活動へと発展させたい。
- ④ 地域住民のコミュニティ・スクールに対する認知度はまだまだ低い。

(3) 今後の取り組み

- ① 学校運営協議会委員や教職員対象のコミュニティ・スクール研修会の充実
- ② 地域学校協働活動は「熟議」を通して、地域と学校で目標共有し、多くの地域住民が参加できる活動を目指したい。
- ③ 地域と学校が目標を共有し WIN&WIN の関係性のある地域学校協働活動を実施していきたい。
- ④ 広報や HP 等で周知活動を活発にしたい。また、地域学校協働活動が活発になることにより、コミュニティ・スクールの認知度が上がるように推進していく。



御明神小学校地内のデワノトネリコ

令和5年度 コミュニティ・スクール(CS)研修会開催

日時 令和5年6月16日(金) 14:00~16:00

場所 雫石町中央公民館大会議室

講師 秋田県大館市立釈迦内小学校 校長 佐藤 潔 氏

今年度の雫石町CS研修会には、雫石町内各学校の学校運営協議会委員や民生委員、教育委員、学校関係者など40名が参加しました。

講師の佐藤潔先生は秋田県教育委員会、文部科学省で生涯学習を担当され、能代市立二ツ井小学校の校長として、地域と学校が目標共有し、WIN&WINの地域学校協働活動を実践しました。



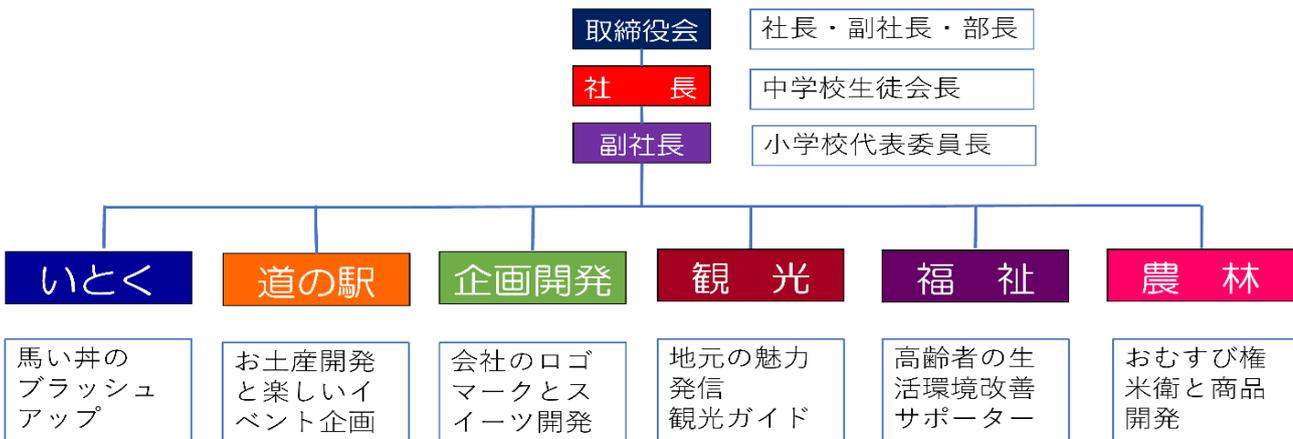
(令和5年度CS研修会開催中)

二ツ井CS(二ツ井小学校、二ツ井中学校)実践事業

「きみまちカンパニー」は小中学生がつくる持続可能な地域社会の創造を応援する企業

「きみまちカンパニー」設立(令和3年度)

地域を元気にする活動がしたい



少子高齢化、過疎化が進む二ツ井地域を持続可能にという地域課題と、「地域を元気にする活動がしたい」という生徒児童の想いから「きみまちカンパニー」を設立しました。活動のコンセプトは「生徒児童が楽しんで、地域と協働して行う活動にする」また、「起業」する学びの体験を通して、将来「起業」して町の活性化や雇用の場の確保に貢献してほしいという地域住民の願いも込められています。

いとく事業部③



道の駅事業部



大槌町のコミュニティ・スクールに学ぶ

10月25日(水)、雫石町内小中学校の学校運営協議会委員等17名はコミュニティ・スクール先進校である大槌学園に視察研修に行ってきました。

大槌町は東日本大震災の甚大な被害を受け、未来を見据えたまちづくりに取り組んでいます。国の復興支援の力を借りながら、大槌学園と吉里吉里学園の小中一貫校を2校開校し、地域ぐるみで子どもの教育に取り組んでいます。今回視察した大槌学園内には、職員室に声をかけなくても町の人が集える井戸端会議室があります。コーディネーターが常駐し、安全面に配慮しつつ学校と地域がお互いにプラスになる活動を展開しています。また1年生から9年生まで地域を学ぶ「ふるさと科」を学習教科に組み込んでいるのが大きな特徴です。

地域の方が直接出入りでき、お茶を飲みながら話をしたり、学校の先生との打ち合わせに利用したりしています



井戸端会議室の説明をする松橋教育長

特色1 大槌学園 井戸端会議室



CSコーディネーターの活動拠点は、大槌学園の校舎の1階にある「井戸端会議室」です。井戸端会議室は、平成28年度に大槌学園の校舎が建設された際に、「地域学校協働本部」として設置されました。地域の方々と学校職員が集い、主にふるさと科の授業づくりに係る打ち合わせが行われています。



特色2 ふるさと科 実践事例



多くの町民と児童生徒が協働しています



令和 5 年度

雫石町コミュニティ・スクール意見交流会開催

2月14日(水)中央公民館で「令和5年度雫石町コミュニティ・スクール意見交流会」が開催されました。町内小中学校の学校運営協議会委員等が集まり、各学校の実践を発表し意見交流を行いました。6月に行われた雫石町コミュニティ・スクール研修会で講師に招いた、秋田県大館市立釈迦内小学校校長の佐藤潔氏を迎え講評をいただきました。

各学校の実践内容は3月末に「令和5年度雫石町コミュニティ・スクール実践報告集」にまとめ、町ホームページに掲載予定です。



他の学校の活動を知ることが出来
ていい機会です

◎佐藤潔氏の講評(抜粋)

- ・学校運営協議会で年間指導計画を示し、キャリア教育も含めた実践を進めていくといい。
- ・雫石町は中学校1校と高校もある。小学校入学前から、幼→小→中→高で連携していくと良いのでは。



講評を述べる
佐藤 潔氏



雫石中学校の実践発表の様子

令和5年度栗石中学校コミュニティ・スクール実践報告集

第1回学校運営協議会 5月24日(水) 14:00~16:00

- 1、本年度の経営・教育目標について
- 2、地域・保護者との連携・協働について
- 3、アンケート調査について
- 4、学校の課題について
 - ・部活動の精選・スクールバスの運用、長期欠席



第2回学校運営協議会 11月29日(水)

14:00~16:20

- 1、授業参観
- 2、報告
 - ①地域学校協働活動の実践 ②中総体・新人大会の結果報告 ③ふるさと学習1年、職場体験2年
- 3、課題
 - ①教職員の働き方改革
 - ②部活動の地域移行
 - ③不適応
 - ④地域側からの提案をする場合のシステム
 - ⑤中高連携

第3回学校運営協議会 2月19日(月) 14:00~16:20

- 1、栗石中学校の地域学校協働活動についての説明(パワーポイントで及川美幸教諭が説明)
- 2、学校運営協議会の活動
- 3、学校の活動報告と課題
 - ①長期欠席
 - ②いじめ案件
 - ③ITCの活用
 - ④その他
 - ・スキー大会引率
 - ・保護者からの欠席連絡
- 4、生徒の活躍(スキー大会等)
- 5、学校評価
 - ・まなびフェストの取り組み状況に関するアンケート調査結果
- 6、次年度経営の重点について(校長)・・・承認
- 7、その他
 - ①よしやれ祭りの参加について
 - ②大人の本気の姿を中学生にみせたい



地域学校協働活動についての説明の様子

コミュニティ・スクール熟議を開催しました

6月28日（水）、雫石中学校で1年生「ふるさと学習」に向けた熟議（自由に意見を出し合う会）を行いました。雫石中学校のふるさと学習は、雫石の生活文化、伝統文化、自然、産業等を知り、郷土への理解を深め、郷土を愛する心を育てる目的で行われてきました。今回の熟議では、福祉、農業、商工会、地域づくり、伝統芸能、行政の各分野に詳しい方から、具体的な活動の案や、若い世代の地域社会へ参画、地域側のニーズを聞く機会となりました。今回出た意見をもとに、どんな活動が行えるかを学校が検討し、秋の実施に向けて計画を立てていくことになります。

地域の祭りや伝統芸能を伝えるキッカケになれば！

～こんなアイデアができました～

町の方は、中学生の気持ちを聞いてみたい

雫石の魅力的な土産物の開発

各地域のお年寄りとの交流（敬老会事業と絡めて）

中学生が立ち寄れるおしゃれなカフェ♡

亀甲織や、草履づくりの体験

地域を盛り上げることを考えさせたい！

お金を稼ぐ活動も面白そう！

小学校から中学校まで繋がるような活動に…

小学校区での活動もいいね☆



雫石中学校1年生よしゃれパレード練習会

7月4日（火）、5日（水）に雫石中学校1年生が、8月11日（金）に行われるよしゃれ祭り参加へ向けての練習会を開催しました。指導は雫石町婦人会が行い、雫石高校郷土芸能委員会13名、雫石高校有志2名が中学生の手本となり一緒に練習を行いました。

4日は、体育館で踊りの習得を目指し練習しました。婦人会の佐々木智恵さんが壇上から「腕を伸ばす！」「親指を折って！」と掛け声をかけ、最初は手の振り、次は足を合わせて踊りました。輪の間には高校生が入って踊り、中学生はその動きを真似ながら1時間後には全員が踊れるようになりました。8月11日のよしゃれ祭りでは、雫石高校生が先導した雫石中一年生の踊りの列が、よしゃれ通りを練り歩きます。



指先まで洗練された雫石高校生を手本に

手作りかき氷はいかがですか～？

9月10日（日）、しずくいしボランティアフェスティバル 2023 が総合福祉センターを会場に開催されました。雫石中学校家庭部は7年前からボランティアフェスティバルに参加しています。今年は家庭部16名と有志1名の計17名がかき氷のブースを出店しました。6種のかき氷を販売し、そのうち諏訪商店が製造した「黒蜜きな粉」と「ブルーベリーミルク」は地元産食材を使用したプレミアムかき氷として大好評でした。ブルーベリーソースは雫石産のブルーベリーを使用し、家庭部員たちが氷との相性を試行錯誤しながら手作りしたものです。

9月でも30℃を超える暑さの中、かき氷を求めるお客さんは多く、1年生は初めての接客販売でしたが元気に声を掛けながら手際よく活動しました。ソースづくりという新たなスキルを手に入れた家庭部は、軽トラ市でも出店できそう！と次の目標を掲げます。副部長の附田沙奈さんと中村まりさんは「手づくりしごとのよさをアピールしながら、若いフレッシュな視点で地域のみなさんと関わる活動を展開していきます！」と意気込みます。



2023 しずくいし産業まつりに出店します

10/21(土)、10/22(日) 雫石町営体育館
家庭部で育てた**ジャガイモ・サツマイモ**販売します！

時間限定の**試食**あります♡

フラワーアレンジメントも販売します🌸



まとめ学習 総合的な学習×国語科

本物の新聞記者さんに書き方を学ぶ！！記事文講座

今回のふるさと学習の取材を国語科の学習と結びつける試みとして、11月6日(月)岩手日報社 磯崎真澄販売局次長を講師に迎え「雫石仕事びと」と題し、記事文の書き方を学びました。要点をつかんでまとめる国語力をつけることを目標に、生徒たちは岩手日報の「ひと」欄を参考に、取材させていただいた方を記事にまとめました。何をしている人なのか分かる自然な写真を心がけることや、小見出しのアドバイスを受け、出来上がった記事文は訪問先に送りました。



磯崎氏の講義を聞く1年生

郷土雫石を支える人々～地域で働く人々から聞く「しごと」～

～町内 20 カ所を訪問して見学・インタビューしてきました～

10 月 24 日(火)、雫石中学校 1 年生は、雫石を支える人びとを訪問し、郷土への理解を深める「ふるさと学習」を実施しました。6月に中学校で行った「ふるさと学習」の方向性を探る話し合い(熟議)を基に、職業として雫石を支える人と、地域の役割を果たしながら雫石を支える人らが活動する町内 20 カ所を、グループに分かれ訪問し、見学や体験、インタビューしながら学んできました。協力いただいた全ての方が快く受け入れ、丁寧に指導して下さいました。生徒はふるさと雫石を支える仕事・役割への理解を深めるとともに、自分自身の潜在能力を一層引き出す学習経験となりました。

【訪問先の方からのコメント】

中村建設株式会社 三浦 潤さん

「道路や、トンネル、川のブロックなどをつくる土木工事をしています。身近な環境を整える、なくてはならない仕事です。特殊な技能や資格がなくても、働きながら身に付けることが出来ます。若い人に興味をもってもらいたい!」



作業員に見守られながら、重機の操作を体験する生徒

銀鮭養殖 滝沢 清さん

「海水での養殖が増えているが、稚魚を岩手県で育てていることはあまり知られていない。中学生に見てもらえたことに意味があった」

餌によってくる銀鮭に歓声をあげ、写真撮影する生徒



雫石麻の会(亀甲織)

晴山 真美さん

「亀甲織をたくさんの人に知ってもらい、体験会に来てもらいたい。利益はあまり出ないが、次の世代に亀甲織の技術や雫石の魅力を伝えていくことが大切だと思っています」

亀甲織を是非体験してみたい!



職場・地域訪問 取材報告会を開催しました

11月9日(木)の保護者参観日に合わせ、体育館で職場・地域訪問取材報告会を行いました。班ごとにインタビューしたことをまとめ、その方から感じた「働く」ということを発表しました。聞いたことを報告するだけでなく、そこから学んだこと、何を求められているのか、自分たちにできることは何かまで深く考えられた発表でした。婦人会を訪問した班は、婦人会の会員が減少していると聞き、活動内容を紹介して「誰でも参加することができるので、ここにいるお母さん方、是非加わってみてください！」と呼びかけました。

生徒はタブレットを活用し、分かりやすくプレゼンテーションし、将来必要なスキルの実践発表の場ともなりました。

雫中生へのメッセージ

まず、あいさつや礼儀をしつかりたことに興味を持ち、いろいろなことに挑戦し、チャレンジしていけば自分が楽しい職業に就くことができると思います。



まとめ 新里幹夫さんから感じた「働く」ということ

◎一生の趣味

銃で撃つことを趣味としているため、大物を仕留めたときにはとても嬉しい気持ちになるそう。何かにやりがいや、楽しさを見出して趣味を楽しむことはとても大切なこと。

◎目標にする

苦労や嫌なことがあったら、目標として設定することで乗り越える。

こんな人に向いている仕事

- ①雫石を愛している人
- ②雫石を盛り上げられる人
- ③雫石について魅力を伝えられる人
- ④地域のお店が残ってほしいなど、一緒に考えられる人

まとめ

◎神楽の伝統を守る為に大村地区だけではなく、他の地域とも協力して神楽の歴史を繋げていくのに僕たちが貢献できるようにしたいと感じました。

藤原 琴音さん 自分の好きなことに一途にまっすぐになれるのはかっこいいと思いました。自分も趣味を仕事に出来たらいいなと思いました。
(鳥獣被害対策実施隊 新里幹夫さんを訪問)

保護者の声 訪問した先が企業だけでなく、地域の役割を担う方を訪問して学んだのが良かった。こうして発表会をすることで、学んできた人生のアドバイス等をみんなで共有して響き合うことがいいですね！

ご協力いただいた20カ所の訪問先のみなさま、ありがとうございました (発表順)

雫石アーチェリーセンター・野球部外部コーチ 橘拓也さん	雫石町婦人会 岩持さん、中川さん、星合さん
国有林材生産協同組合 大村利夫さん、高橋健太郎さん	雫石町役場(税務課) 井上岳丸さん
五代目 徳田慎太郎(農業) 徳田慎太郎さん	一般財団法人雫石町スポーツ協会 吉田博輝さん
ケアヴィレッジななかまど 櫻田正則さん、出町佳純さん	しずくいし麻の会(亀甲織) 晴山さん、佐藤さん、藤本さん
ペンションH A I J I /自然公園保護管理員 上村聡さん	銀鮭の養殖 滝沢清さん
鳥獣被害対策実施隊 新里幹夫さん	雫石軽トラ市実行委員会 多田信将さん
菊の司酒造株式会社 西館誠之さん	雫石リサイクルセンター 高畑準さん
リアス観光(株) 雫石営業所 大久保誠さん	雫石プリンスホテル 佐藤さん、太田原さん、小澤さん
御明神夏祭り実行委員会 平子田由則さん	株式会社中村建設 吉田勝司さん、三浦潤さん
町議会議員(議長) 岩持清美さん	大村山祇神楽 高橋憲功さん、村田徹さん

〈第10回東北農政局「ディスカバー農村漁村(むら)の宝」奨励賞〉受賞

雫石中学校家庭部は H29 より、野菜栽培(六次産業化実習)と地域・福祉を掛け合わせた活動を展開し、〈東北農政局「ディスカバー農村漁村(むら)の宝」奨励賞〉を受賞しました。農林課の指導を仰ぎ、学校前の畑を耕作し育てた野菜を軽トラ市や、産業まつりなどで販売し、6次産業化活動を展開しています。また、蕎麦打ちやぬか床づくりなど、地域の方と交流しながら伝統食を学んでいます。高齢者デイサービス施設での昼食調理交流、子ども食堂への材料提供など、学びや成果を地域に還元する農産活動が評価されての受賞となりました。



横手さんと記念撮影する家庭部生徒

1月26日(金)に中学校で行われた表彰式では、東北農政局から賞状を授与されました。1年生の大久保咲希さんは「栽培から販売まで自分たちで行い、育てた野菜が売れた時は達成感を感じる。この賞をいただいたことを励みにまた頑張っていきたい」と意気込みを述べました。校門近くの畑を提供してくれている横手久子さん(84)もお招きし、部員たちは頂いた賞状をたずさえ、感謝の気持ちを伝えました。横手さんは「ひこ孫と同じ年の子どもたちと一緒に畑をやっていると若返る」と健康の秘訣にもなっていると話します。

雫石中学校 地域交流

今年もまごころこめた年賀状を届けました

今年も雫石中学校は全校で町内の75歳以上の一人暮らし世帯に「まごころおはがき」年賀状を書きました。全校での取り組みは今年で4年目となり、生徒の年賀状も力作ぞろいです。学校内で独自の賞を設け、大賞、優秀賞、優良賞を始め、尾藤賞、川崎賞、櫻井賞、松尾芭賞、HOTで賞、及川賞など各賞が選出されました。



3年 堀内 しずくさん



中学校に、たくさんのお返事が届きました



優秀賞

1年 藤原 琴音さん



優秀賞

2年 千葉 美優さん



優秀賞

3年 安本 芽生さん

コミュニティ・スクール熟議を開催

～わたしたちの町の災害と安全～

12月27日(水)雫石中学校では来年度2年生の総合的な学習に向けて熟議(自由に意見を出し合う会)を行いました。

「いわての復興教育」に基づき、来年度2学年は沿岸地域・雫石町の災害や防災、支え合いについて学ぼうと計画しています。雫石町の災害と安全について、防災課や社会福祉協議会、リアス観光など関係する方々が集まり、雫中生にやらせたいこと、経験させたいことを語り合いました。

今回出た意見やアイデアを基に、中学校は来年度の学習計画を立てていきます。

「熟議」

学校運営協議会とは別に多くの当事者が集まる機会を設定し、「熟議」を行うことで、学校の本音、地域の思いを共有することができ、「じゃあ、どうする？」を協働で考えていくことができる。

「いわての復興教育」

郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するために、各学校の教育活動を通して、3つの教育的価値(いきる・かかわる・そなえる)を育てること。



III 成果と課題

【成果】・雫石町教育委員会と学校運営協議会委員の皆様のご協力で、年3回の雫石中学校学校運営協議会を開催し、学校運営に関するご助言をいただいた。

・地域関係者の皆様と教職員の思いを共有する熟議を年2回開催し、カリキュラムをマネジメントできた。来年度以降の「総合的な学習の時間」の学習内容等の見直しを進めている。

・地域福祉担当から本校で行っている地域学校協働活動の取組について紹介する機会を設けたことにより、地域関係者の理解と協力を得ることができた。

【課題】・町の交付金の使い方について引き続き検討すること。

・地域での行事を進める上で、生徒と直接かかわる教職員が学校運営協議会委員等と交流したり、親睦を図ったりすること。

・職場体験学習地域人材バンクを活用すること。

IV 次年度の計画

・現在行っている地域学校協働活動の教育的価値を確認するとともに、継続・発展に努める。

・今年度の地域学校協働活動の成果と課題をもとに、来年度のカリキュラムを検討・計画・実践する。

・今年度同様、生徒の課題点や地域のニーズ等から学習内容を考え、学びへとつなげていく。

令和5年度雫石小学校コミュニティ・スクール実践報告集

I 学校運営協議会の開催

第1回学校運営協議会 5月23日(火) 15:00~16:30

- (1) 令和5年度の学校経営の概要について
- (2) 令和5年度の教育活動について
- (3) 地域学校協働活動について
- (4) 今年度の学校経営の承認

第2回学校運営協議会 12月6日(木) 15:00~16:30

- (1) 学校の現況について
- (2) 学校経営の課題について
- (3) 学校支援活動・地域連携活動・地域学校協働活動について
- (4) 150周年記念事業について
- (5) その他
フォーラムを使用しての欠席連絡について

第3回学校運営協議会 2月15日(木) 15:00~16:00

- (1) 令和5年度学校経営6つの重点の反省
- (2) 学びフェスト2023 児童・保護者・職員アンケート結果
- (3) 令和6年度の学校運営について
- (4) 150周年記念事業について

II 特色ある活動

雫石小学校 交通安全教室

地域の方が自転車の路上訓練をサポート

4月19日(水)、雫石小学校で交通安全教室が行われ5、6年生は自転車の安全な乗り方を、学校周辺の道路を走行しながら学びました。自転車走行ルート上のポイントとなる地点に、3名の民生委員の方がボランティアで立ち、「一旦停止して、左右確認してね」「車が来てるから左に寄ってね」と路上訓練がスムーズに行われるよう児童に声掛けを行いました。地域の方も自転車や歩行時のルールを改めて確認しながら児童に声をかけました。この日は風が強く、両手でハンドルを持たないとふらつくので、「しっかりハンドルを握ってね」と命を守ることを優先に臨機応変に呼びかけました。

交差点では一時停止をするよ



中町二・三 齊藤順子さん



晴山 猫平吉男さん



高前田一 下川原正之さん

雫石小2年生 雫石よしゃれ通り探検

しょうてんがいのこと、もっと知りたい!

7月5日(水)、雫石小学校2年生、46名はよしゃれ通り探検に出かけました。地域の商店街を知ること、ふるさとへの愛着を深めようというこの学習に、鈴木豊さん(晴山)と横手信子さん(駅前)が地域ボランティアとして児童を引率しました。

3時間目、鈴木さんの引率する1組のグループは諏訪商店を訪問しました。諏訪商店は米のほか、ガスや灯油なども売っていることを店員の高橋さんから教わりました。7年前から売られている団子は米粉からではなく、玄米を蒸し、餅のようについて作っていると教わった児童たちは、玄米の粒感や弾力を確かめながらみたらし団子の試食をいただきました。また鈴木さんは「これは質問してみたら?」などと児童を促し、学びが深まるようサポートしました。

4時間目は2組が探検に出かけました。横手さんは、相澤家具店を訪問するグループを引率し、見守りや声掛けを行いました。相澤家具店では、邦夫さん睦子さんご夫妻が、店内や木工所を案内してくれました。

諏訪商店



米屋として約100年前にできたんだよ

諏訪商店は何年前にできたんですか?

相澤家具店



あっ、開けられたよ!(^^)!

木で作ったからくり箱、開けられるかな?

大定商店、中村屋、米澤時計店、諏訪商店、村松靴店、木文商店、菊屋薬局、相澤家具店、中屋五郎商店にご協力いただきました

よしゃれ祭りパレード～地域の祭を盛り上げよう～

8月11日(金)雫石よしゃれ祭りが開催され、雫石小学校1,2年生はロック調よしゃれを踊り、同5,6年生は鼓笛隊による演奏を披露しました。



雫石小1,2年 ロック調よしゃれ



雫石小5,6年 鼓笛隊

みんなで「お宝」を探し、地域の魅力を知ろう！

10月12日(木)、13日(金)、雫石小学校4年生44名は総合的な学習で地域の「お宝」を探しにでかけました。保護者や役場職員等、延べ30名が見守りとして児童のグループに2名ずつ入り、12日は街中コース、13日は農園コースにあるお宝を探しながら歩きました。

普段よく歩いている場所でも、これは何だろう?と思うものや、見たことないものはあるもので、児童はお宝を見つけては写真を撮り、見つけた地点を地図に記して歩きました。自宅の庭に山で採ってきた香茸を干している方や、畑でニンニクを植えている方にインタビューしながらこの学習の最後にまとめるお宝マップの情報収集を行いました。児童の屈託のない様子に、一緒に歩いた大人たちも童心に帰ったようでした。



雫石駅にオープンしたコーヒーショップ「nana bansen」 この香りもお宝だな！

ニンニクを植えているんだよ



何を植えているんですか？

雫石町の未来は明るい☆



役場で佐藤教育長にインタビュー！ 雫石の子どもはどうですか？

栗石小学校から地域のみなさんへ

栗石小学校スクールガードの活動を紹介します

栗石小学校の児童は、スクールガードのみなさんのおかげで、安全に登下校することができます。スクールガードは、子どもの笑顔と安全を守りながらボランティアで活動されていますが、最近はスクールガードの高齢化が進み、人数も少なくなってきました。

スクールガードのみなさん、いつも見守ってくれてありがとうございます！



上町1 正直堂付近で見守る諏訪エミ子さん



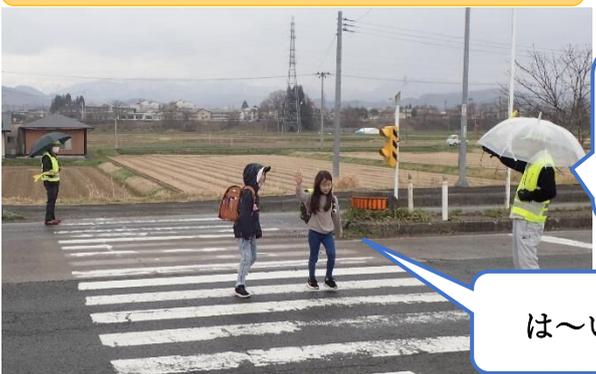
上町や晴山方面から登校する児童の見守りをしています。元気に挨拶してくれると嬉しいです。

谷地たえさんの活動の様子（谷地）



行ってきまーす！

晴山交差点の活動の様子



おかえり、雨が降ってきたから道草しないで帰れよ～

は～い！☆

上寺下T字路の活動の様子（駅前）



急募

スクールガードと一緒に活動する仲間を募集します！子どもたちや地域の方から元気をもらえ、ライフワークにもなる活動です。子どもたちの安全を、地域で見守っていきませんか？

雫石小学校付近の危険箇所

危険箇所 1.

旧さくら亭付近は、上町、谷地、高前田方面から横断歩道を利用する児童が多く、朝は駅に向かう車も多いことから、見守りがあるといいなという声があります。

おはよう
ございます！



危険箇所 2.

雫石町役場から正直堂に向かう車両は、朝7時から8時までには、児童の通学の安全のため通行できないので、ご協力をお願いします。

ご近所のみなさん、ゴミ出しの帰り、散歩がてら等、

「できる人が、できる時に、無理なく見守る」

ことも、地域ぐるみの子育てです。

児童も地域の方へ気持ち良い「おはようございます！」で答えます。



III 成果と課題

1. 成果

- ・各学年、発達段階に応じた有意義な活動ができた。低学年では見学の要素が強い活動から始め、学年が上がるにつれ、自主的な活動の色が強くなるように意図的に学習活動を仕組み、子どもたちの変容が図られた。
- ・グループでの学習形態が多く、安全面で心配されたが、地域の方の協力が得られたことで、安心して安全に学習に取り組ませることができました。

2. 課題

- ・各活動について、どんな目的でどんな力を身に付けさせたいか、さらに明確にしていくこと。指導者として意識して指導してはいるが、それを明確に子どもたちにもたせることが希薄であった。子どもたち自身が、何のためにこの活動を行い、この活動を通してどんな力を身に付けることができるのか、自覚をもたせさらに効果的な活動にしていく。
- ・活動をつないでいくこと。各活動が有意義なものになっているが、それぞれが単発になってしまっは、効果が薄れていくので、各教科とも関連付けながら、系統性をもたせてさらに効果的な指導を探っていきたい。

IV 次年度の計画

1. 「熟議」による目標の共有

- ① 第1回学校運営協議会（5月～6月）

目標（テーマ）の共有

- ② 150周年記念事業について

2. 既存の学校支援活動、地域連携活動の価値付け、発展

- ①第1回学校運営協議会（5月～6月）

- ②第2回学校運営協議会（10月～11月）

地域連携活動についての情報共有、振り返り

3. 地域学校協働活動の振り返り、次年度に向けての方向性

- ①第3回学校運営協議会（2月）

令和5年度七ツ森小学校コミュニティ・スクール実践報告

I 学校運営協議会の開催

第1回学校運営協議会 6月8日(木) 10:30~11:30

- 雫石町学校運営協議会規則について
 - ・第9条(守秘義務、)第10条(委員の任期)等の確認
- 令和5年度「地域学校協働活動」実施計画について
 - ・七ツ森ワークショップ
(丸太ベンチの設置、ツツジの植栽)
 - ・各活動への参加を促進するPR
(SNSの活用等)
 - ・人材バンクの活用 等



(第1回学校運営協議会の様子)

第2回学校運営協議会 11月24日(金) 10:00~11:30

- 令和5年度中間学校評価について
 - ・クマ出没の影響、体力テストの結果 等
- 令和5年度「地域学校協働活動」実施状況について
 - ・読み聞かせボランティア
 - ・七ツ森ワークショップ(丸太ベンチの設置)
 - ・稲作体験
- 令和6年度「雫石町コミュニティ・スクール推進事業」について
 - ・令和5年度予算執行状況
 - ・令和6年度予算要望(案)
- その他
 - ・創立40周年記念事業 等



(第2回学校運営協議会の様子)

第3回学校運営協議会 3月7日(木) 10:00~11:30

- 令和5年度活動報告について
 - ・七ツ森ワークショップ、もち米配付、能登地震募金 等
- 令和5年度学校評価について
- 令和6年度学校運営基本方針について
 - ・元御所さんさ、金管等の取組
 - ・40周年記念事業
 - ・食育(事故防止含む)
 - ・通学路のクマ対策 等



(第3回学校運営協議会の様子)

七ツ森小学校3年 ～おきな草を守っていききたい～

賢治ゆかりのおきな草を植えた

5月12日（金）七ツ森小学校3年生12名は「雫石と宮沢賢治を語る会」等6名の方から指導を受け、御明神地区の高見信男さんより分けていただいたおきな草を植栽しました。この活動は2010年に始まり14年目の開催となります。

児童はどうして七ツ森小学校におきな草を植えるのか、なぜ下を向いて咲いているのか、宮沢賢治が「オキナグサ」という童話を書いた理由を「宮沢賢治を語る会」の方たちに質問しました。それに対し、分かりやすいように絵本を用いて、当時の賢治の状況を推察しながら回答してくださいました。

児童は、おきな草と宮沢賢治のことをたくさん知ることができたと感想を述べこの活動の大切さを学びました。



宮沢賢治は学生時代に立ち寄った七ツ森の地に咲くおきな草を題材に詩や作品を書いています。

おきな草の綿毛、フワフワだ～♪



お爺さん（翁）の髭に似ているからおきな草と呼ばれるんだよ



おきな草は雨や外敵から花粉を守るために花が下向きに咲くと言われています



おきな草の日本原種は絶滅危惧種になっていて、何もしなければなくなってしまうんだよ。

地域のみなさん、ありがとうございます！

七ツ森小学校スワンスロープ刈払い

6月24日（土）七ツ森小学校裏のスワンスロープの刈払いが行われました。スワンスロープは七ツ森小学校の児童が冬場のスキー学習するのに適した、なだらかな斜面が広がります。



七ツ森小学校創立当初から続いているこの活動に、子どもが小学生だったころから参加している千葉清さんは、「以前は児童が飼っていた2、3頭の羊に草を食べさせていたこともあったよ」と教えてくれました。ス

ワンスロープには松などの稚樹が植生していて、太くなる前に刈らないと危険で、児童がスキー学習を安全に行うためには欠かせない作業となっています。

今回は9月2日（土）に2回目の刈り払い作業が行われる予定です。

七ツ森小学校 地域連携活動

みんなで七ツ森に丸太ベンチを設置しよう！

この活動は、七ツ森小学校運営協議会と雫石町農林課が連携し、地域の人に気軽に参加してもらいながら七ツ森の森林資源を守り育てる「七ツ森ワークショップ」の活動の一環で開催されました。

夏休み初日7月27日（木）、七ツ森小学童「もりもりクラブ」の児童およそ20名が小学校体育館で赤、黄、青、緑、桃色のペンキを丸太ベンチに塗りました。児童たちが楽しみながら塗った5色の丸太は乾燥させた後、小岩井農牧の方に防腐処理と、土台の取り付けをしていただきました。

8月9日(水)は18名の児童と、9名の地域の方、林業関係者など 総勢40名が参加し、5台の丸太ベンチを大人と子供で力を合わせ、坂道を運び、座面が水平になるように設置しました。農林課天川課長は「2050年までに二酸化炭素排出をゼロにする『カーボンニュートラル』という取り組みが行われています。ツツジの植樹や今日の取り組みは、二酸化炭素を吸収し酸素を作ってくれる森林を増やすことに繋がります」とこの活動

の意義を述べました。児童は丸太ベンチを設置したあ

と、松ぼっくりを拾ったり、カナヘビの赤ちゃんを見つけたり自然と触れ合いました。

参加した地域の方は「この場所でデイキャンプができるようになるといいな」

「この場所に子どもたちが名前（愛称）を付けてもいいね！」と次の夢を語りながら

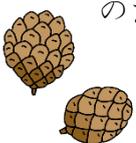
活動を終わりました。



端っこまで、残さずしっかり塗るぞ～！



あと少しだ、ガンバレー！！



2023 七ツ森ワークショップ ～みんなでツツジを植栽しよう！～

12月2日(土)、七ツ森地内の町有林で「七ツ森ワークショップ」が開催され、100本のツツジを植栽しました。昨年度、七ツ森小学校学校運営協議会では「児童が自分に自信をもつためには」をテーマに話し合いました。ツツジを植栽し将来にわたり七ツ森の美しい景観を作っていくこの事業は、児童の自己肯定感を育み、学校と地域双方にメリットがある活動になると考え、昨年度から学校運営協議会としてこの事業を共催しています。

雪がうっすら積もる中、7名の児童を含む約40名が参加し、町道沿いの斜面にツツジを植えました。この活動が広がり続いていくことで、七ツ森がツツジの咲き誇る、雫石の新たな景勝地になることが望めます。



霜で浮いてこないように苗の根元の土をしっかりと踏みしめて・・・

他の木の根っこがあつて掘るのが難しかったけど、上手く植えられて良かったです



2年桜糺葉月さん、1年芦久保溪吾さん



III 成果と課題

○成果

- ・令和4年度に確認した「学校運営協議会の目的や意義（自己肯定感の醸成）」に基づき、1年を通じて活動することができた。
- ・活動の柱である「七ツ森ワークショップ」について、内容の拡充を図ることができた。

○課題

- ・各種活動に協力いただける人材の発掘

IV 次年度の計画

- 「自己肯定感の醸成」という学校運営協議会の目的や意義に基づき、各活動を継続して実施する。
- 「七ツ森ワークショップ」を引き続き活動の柱とし、本校の伝統である金管活動や、地域住民の参画を得ながら実施する稲作体験・読み聞かせ活動等を通じて、自尊感情を高め故郷を愛する気持ちを高めていく。
- 「創立40周年記念事業」を通じて、学校・家庭・地域が連携して七ツ森の子供たちを育てる機運を高める。

5月 第1回学校運営協議会

おきな草を植える会

40周年記念大運動会

6月 七ツ森ワークショップ関連学習

田植え

スワンスロープ刈り払い①

40周年記念植樹

7月 40周年記念航空撮影

9月 第2回学校運営協議会

スワンスロープ刈り払い②

稲刈り

10月 校内マラソン大会

40周年記念式典・学習発表会

40周年記念誌発行

11月 七ツ森ワークショップ

脱穀・収穫祭（給食にご招待）

12月 もち米配付

3月 第3回学校運営協議会

随時 登下校の見守り、読み聞かせボランティア

令和5年度西山小学校コミュニティ・スクール実践報告集

I 学校運営協議会

第1回学校運営協議会 6月1日(木) 13:30~15:00

- (1) 今年度の学校経営等について
- (2) 令和5・6年度役員選出について
- (3) 今年度の地域学校協働活動について
 - ・テーマ(重点) ・具体的な活動 ・収支予算
- (4) 2023火山砂防フォーラムに向けて
 - ・岩手山の災害と恵みについて理解を深める手立てについての情報・意見交流



(西山小学校第1回運営協議会の様子)

第2回学校運営協議会 11月8日(水) 13:45~16:00

- (1) 1学期学校評価(職員・保護者評価)・学校経営の成果と課題
- (2) 地域学校協働活動について
 - ア、上半期の活動について
 - ・14の活動で学校支援(米作り・苗植え、読み聞かせ、陸上教室、花壇、着衣水泳、宿泊体験学習・登山ガイド、環境学習、地区探検、ピアノ伴奏、伝統芸能、ミシン補助、学校林見学)
 - ・岩手大好きクラブ(地域の方から学ぶ)
 - ・6回実施(カメラ体験、車椅子バスケット体験、フラワーアレンジメント体験、乳搾り体験、プログラミング、郷土食)
 - ウ、来年度の活動について
 - ・視察研修会(大槌学園)の様子を紹介していただき、意見交流した。
 - ・学校と地域との協働活動をスムーズに進めていくためにはどのようにしたらよいか、そのためには交流できる場所や人材確保のための工夫が必要であることなどが話し合われた。
 - ・重点(目的)と活動内容の整合性について吟味する必要があるとのご意見をいただいた。



(西山小学校第2回運営協議会の様子)

第3回学校運営協議会 2月13日(火) 13:20~15:30

○授業参観実施

- (1) 2学期学校評価(児童・保護者・教職員アンケート)・学校経営反省について
- (2) 令和6年度学校経営方針の承認
- (3) 令和6年度事業計画について

II 特色ある活動

火山防災フォーラムへ向けての取り組み

10月19日（木）に雫石町で開催される「2023年火山防災フォーラム」で、西山小学校6年生が研究発表を行います。それに向け昨年度末、3月9日（木）、3月14日（火）にNPO法人土砂災害防止広報センター・国土交通省・岩手河川国道事務所の方々を講師に5年生（現6年生）20名は火山防災の基礎について学びました。

第1回目は「災害への備え」をテーマに模型を使った実験で、火山噴火や火砕流・土石流の仕組みを学びました。児童は、西山地区内に建設中の砂防堰堤（砂防ダム）があり、火山への備えが身近にもあることを知りました。

第2回目は、地域の方々も招き、6年生と「岩手山の恵み」について学習しました。雫石町観光商工課の方から、雫石町の観光資源について説明を受け、一緒にグループワークで意見交換をしました。岩手山の恵みについて、「温泉」「スキー」「食べ物」「水」「景色」など、様々な発見ができました。2回の学習で、岩手山が噴火の可能性のある活火山でもあり、地域へ恵みをもたらす

大切な山であることを学びました。

今後は、地域の方々と協働しながらワークショップや現地調査、授業研究等で学習を深めていきます。



岩手山のめぐみについて、地域の方と活発に意見交換をしました



水蒸気爆発実験に驚く直前の児童たち



西山小学校 畑づくり

地域のおじいさんおばあさんが先生に

5月31日（水）、6月1日（木）、6月6日（火）、西山小学校児童は学年ごとに地域の方から畑作りを教わりました。

5年生はサツマイモ、枝豆、ポップコーンの種を植える為、5本の畝を作りました。七ツ森在住の高橋勝明さんから、自分の足のサイズ×歩数で畑の幅を計算し、ひと畝の幅を割り出す方法を教わり、児童は農業には算数が役立つことを知りました。マルチングのビニールを切る時には木切れを使い、そこにあるものを工夫して使う知恵も教えてもらいました。

畑の幅は僕の足で19歩。靴の大きさが24cmだから、畝を5つ作るとすると1畝の幅は・・・



3年生は枝豆、ポップコーンの種、カボチャを植えました。林崎の高田栄子さんから、畝にマルチングすると、ビニールの中は高温になって草取りの手間がなくなり、水分が蒸発しないので水やりもそれほど必要ないと教わり、今後の育て方のコツも教えてもらいました。

カボチャはほかの作物のじゃまにならないように、ツルが伸びてきたら土手の方に這わせるんだよ

高田栄子さん、高田良子さん、蟹沢川徳枝さんから教えられ、カボチャの苗を植える3年生



桐山桂子さん、武田長榮さん、高橋勝明さんから教わる1年生の児童

西山小学校5年生

家庭科裁縫ボランティア ~玉止めできた

6月26日(月)、30日(金)西山小学校5年生28名は、初めての裁縫の授業に臨みました。各日、2名の地域ボランティアの方が助っ人となり、玉結びや玉止めの仕方、波縫い、返し縫いを学習しました。

26日は、玉結びと玉止めに挑戦しました。最初は糸を「一本取り」で玉結びに挑戦していた児童でしたが、ボランティアの桐山桂子さんに「二本取りの方がやり易いよ」とアドバイスされ、いろいろなやり方を教わりました。

30日は、波縫いや返し縫い、かがり縫いに挑戦した児童。短い時間の中での一斉作業でしたが、ボランティアの方が個別に教えてくれたので、コツを掴んで楽しそうに作業する児童が増えました。坂下テイ子さんは「待ち針は、縫った先から抜いていくと手に刺さらないよ」とコツも教えてくれました。「私にできるかしら?」と不安だったボランティアの方も、「子どもたちがとてもかわいくて、楽しかった!」と教えることに手ごたえを感じていました。

玉止めはしっかり押さえてね



布を2枚重ねて縫うんだよ



待ち針は針山に戻してね



今回は小谷地和子さん、桐山桂子さん、坂下テイ子さん、堂前敏子さんに教えていただきました

鞍掛山登山、地域ボランティアさんは山のプロ!!!

5年生29名は9月1日(金)、鞍掛山に登りました。登山を通して自然を愛する心情を養うため、登山の注意点や鞍掛山の自然(植物など)を教えてくれる方に一緒に登ってもらいたいという学校の願いに、上村聡さんが賛同しました。上村さんは子どもを育てるならば自然豊かな場所が良いと、10年前に東京から移住し、ペンションを営みながら自然公園保護管理員として、岩手山登山道を歩きやすいように整備する仕事もしています。

最初は元気に登り始めた児童でしたが「あと、どのくらい?」「足が痛い」という声も出てきました。上村さんは適宜休憩をとり、熱中症予防に児童の頭に冷却スプレーをしてサポートをしてくれました。登山道に雨水が溜まらないように「水切り」という溝を設けていることや、中腹にある石窯跡では、

昔は木を切ってここで炭焼きをしていたことなどを教えてくれました。鞍掛山に

自生する
オオナン
バンギセ

ルや珍しいモリアオガエルにも遭遇し、鞍掛山の自然と親しむ機会になりました。



岩手山を背景に記念撮影📷



🐱と遭いませぬように〜



沢の水でタオルを冷やす児童💧

地域のゲストティーチャー

～写真の面白さを伝えたい～

写真家 奥山さん

8月30日(水)、西山小学校「岩手大好きクラブ」12名は、西山地区に住む写真家の奥山淳志さんを講師に迎え、写真を撮るポイントなどのお話を伺いました。奥山さんは「自分でテーマを決めて写真を撮影してき

て」と児童にお題を出し、児童はテーマを決めてデジカメで写真を撮り、披露し合いました。奥山さんは光や影で人の気持ちを表したり、切り取る部分でとらえ方が違っていたり、それを写真で表現するのが面白いということを児童に伝えました。



「アリの世界」がテーマの
森合寧音さんの作品



「懐かしい」をテーマに
八谷裕奈さんは1年生教室を撮影

ミシンボランティアさん、ありがとう！

西山小学校6年生20名は9月14日から19日までの3日間、修学旅行に持っていくナップザックの製作を行いました。高橋安子さんと山口かやさんが、ミシン作業の安全を見守りながら支援をしてくださいました。児童が困ったときに手助けするほかに、授業の前にミシンの調子を確認して、

ミシン学習がスムーズにできるように準備もしていただきました。

ボランティアさんのサポートもあり、全員が完成させたナップザックを持って修学旅行に出発します。

さすが6年生。去年のことを覚えていてみなさん上手でしたよ



一生懸命取り組んで、たくさん質問もされました



西山小学校 岩手大好きクラブ&家庭科クラブ in 小松牧場

乳しぼり、子牛とのふれあい体験

9月27日(水)、西山小学校岩手大好きクラブと家庭科クラブの19名は、上長山の小松牧場を訪問しました。小松牧場は乳牛37頭を飼育する酪農家です。小松牧場は牧草を作り、牛に食べさせ、牛のふんのたい肥を畑にまいて草を育てる「循環型酪農」の仕組みを取り入れています。このような農場は珍しいそうです。小松崇さんは、小学生たちが毎日飲んでいる牛乳がどのような経緯で給食に出されているかを話してくださり、児童は牛乳をより身近なものに感じていました。児童は乳しぼり体験と、子牛にミルクを飲ませる二つのグループに分かれ牛と触れ合いました。最初は牛の大きさに圧倒され、乳に触ることもできずにいた児童でしたが子牛に哺乳瓶でミルクをあげる頃には、みんな笑顔でお世話をしていました。



大丈夫？ 蹴らないかな？



できた！、搾れたよ(・▽・)

おなかペコペコなの～？



一緒に雫石のいいところを見つけよう！

9月20日（水）、御明神小学校3年14名と西山小学校3年22名は「雫石のじまんさがし」に出かけました。お互いの地域のいいところを知るとともに、児童の交流を深めるという目的で今年度は2校合同で行いました。

「雫石のじまんさがし」

- ①上和野馬頭観世音堂 → ②岩手山神社 → ③小岩井一本桜 → ④小岩井農場牛舎・四階倉庫→
⑤道の駅雫石あねっこで昼食 → ⑥貝の化石採り

上和野馬頭観世音堂は、馬の健康や農作業の安全をお祈りする仏堂で、東日本大震災をきっかけに国の有形文化財に登録されました。昔の人の生活には馬が欠かせないもので、家族のようにとても大事に育てていたことや、昭和天皇の愛馬がこの御明神地区から献上されたことを、管理している岩持斗季子さんが教えてくださいました。



とても賢い馬だったそうです

岩手山神社では宮司の笹田武彦さんと総代の篠村幸造さんがお話を教えてくださいました。篠村さんが山中で湧き水を偶然見つけ、境内まで引いて水汲みを作り、毎日多くの人を訪れる神社になっています。

安全に飲める美味しい水です



小岩井農場では佐藤康さんが国の重要文化財の牛舎や四階倉庫を見学しながら説明してくださいました。児童は、牛にまつわるクイズに答えながら、小岩井農場について楽しく学びました。

ここにはもうすぐ赤ちゃんを産むお母さん牛が居ます



「道の駅雫石あねっこ」の施設を見学した後、貝の化石採りを行いました。今から900万年前、雫石は海の底だったという説を体験できる場所が橋場の山の中にあります。児童は一列になり沢を登り山の奥に分け入りました。ハンマーとタガネを使い、岩を砕く両校の児童。しばらくするとあちこちから「あった！」「見つけた！」と声上がり、夢中で探していました。



橋場出身の千葉昇さんが、山道の草刈りをしてくれました

魚の形の化石発見！



私は巻貝の化石を見つけたよ♪



「私たちが考えたイーハトーブ！」 人が集まり、安全な岩手山となるために

10月19日、野菊ホールで「2023 火山砂防フォーラム」が行われ、西山小学校6年生20名は、一年をかけ岩手山の火山活動や、岩手山のもたらす恵みについて調べたことを発表しました。発表は雫石町長からのミッションで、現地・地域の調査を行い「町の魅力」を導き出し、改めて地域が好きになったという内容でした。発表に至るまでの事前学習には、学校運営協議会委員も参加し、火山の仕組みや、災害時の避難について児童と一緒に学びました。

西山小学校学校運営協議会委員の櫻田久耕さんは「私たちも事前学習に参加し、岩手山の恵みや、防災について児童と一緒に考え、子どもたちの感性での発言内容に感心させられました。学習の成果が『防災ブック、いいところマップ』としてまとめられ、その内容と児童の堂々とした発表に感服しました」と感想を述べました。



500名の参加者を前に発表する児童



恵みチームの発表



防災チームの発表

西山小学校 岩手大好きクラブ×家庭科クラブ 郷土料理を作りたい！

食生活改善推進員さんから伝授～かま焼き作り～

11月22日(水)、西山小学校岩手大好きクラブと、家庭科クラブ19名は岩手の郷土食のかま焼き作りを行いました。どんな活動がしたいかを話し合う中で、郷土食を教えてもらいたいと声があがり実現しました。教えてくださった雫石町食生活改善推進員連絡協議会のみなさんは、調理体験を通して食の大切さを子どもたちや町民に伝える活動をしています。この日は5名の方が交流しながら教えてくださいました。

外国語のホーリー先生も一緒に♡国際交流



米粉に熱湯を注ぎ、熱いうちにこねます

生地で包んだみそだれが出ないよう！



クラブ見学に来た三年生も試食！でこの表情♪

III 成果と課題

1 成果

- (1) 「2023火山砂防フォーラム」に向けての学習では、学校運営協議会委員の方々にも入っていただき、アドバイスを受けながら一緒に進めることができた。6年生の児童は、火山防災への意識をより一層高めたり、火山の恵みや地域のよさについて考えを広げたりすることができた。フォーラム当日、学習の成果を多くの方々の前で発表し自信を深めた。
- (2) さまざまな学習や活動への支援を頂いたことで、学習効果を高めることができた。学習内容によっては、個に応じた支援もしていただき児童の意欲の継続、達成感等につながった。昨年以上に、より多くの地域の方々とおふれあうことができ、地域の方々も子供たちとおふれあうことをとても喜んでいただいた。
- (3) 3年生の地域探検を、今年度は御明神小学校3年生と合同で実施し、お互いに交流を深めながら学習を進めることができた。さらに、ICTを活用して学習の成果を交流するなど工夫することで、より充実した学習につなげたい。

2 課題

- (1) 学校として、地域ボランティアの募集の仕方を工夫していくこと。
例えば、
 - ・学年の活動については、PTAの学年役員さん等にご協力いただく。
 - ・年度当初に年間計画を立て、4月にボランティアを募る。
 - ・西山まちづくり会議と連携を図る。
 - ・ボランティア名簿を作成して、次年度以降につなげる。 など
- (2) 地域ボランティアの方々为学校に気軽に足を運んでいただけるよう、集まったり休憩したりする場所を確保すること。

IV 次年度の計画

- 1 次のようなテーマ（重点）に沿った活動を推進していく。
【テーマ】 「地域とともにある学校づくり」
【重点】 ・地域の方々との交流・支援を通して学習の充実を図るとともに、地域のよさを学び、郷土に誇りをもつ児童に育てる。
- 2 地域との連携を図りながら、次のような活動を進めていきたい。
 - ・合同運動会 ・環境学習 ・地域ふるさと学習 ・陸上練習
 - ・ミシン（裁縫）学習 ・米づくり、畑作り体験 ・里山教室（学校林の見学）
 - ・スキー学習 ・岩手大好きクラブの体験学習 など

令和5年度御明神小学校コミュニティ・スクール実践報告集

I 学校運営協議会の開催

第1回学校運営協議会 令和5年5月15日(月) 18時00分 ~ 19時00分 11名

- 今年度の学校経営、年間行事計画、まなびフェスト等について
- コミュニティ・スクールの取組「環境教育を軸にふるさとの良さを学ぶ」について
- 「地域と学校を結ぶ共通のテーマ」について
 - ・チョウセンアカシジミ観察保護・竜川水生生物調査・アルミ缶回収
 - ・春木場駅清掃・「橋場文化祭」・「御明神・橋場地区盛り上げ隊」
- 今年度について
 - ・地域学校協働活動は道の駅とのコラボ「御明神地区・橋場地区盛り上げ隊」
 - ・「チョウセンアカシジミ」の観察保護活動を重点に取り組む。



第2回学校運営協議会 令和5年10月21日(土) 11時20分~12時00分 10名

- 上半期の学校評価(自己評価)と学校経営上の課題について
 - ・「掃除」「読書」への指導が徹底されている。
 - ・「メディアルール」について保護者への働きかけを徹底したい。
 - ・児童、保護者、教職員の結果を照らし合わせながら指導にあたる。
- 次年度の予算要望方法について(担当から)
 - ・地域学校協働活動とは、地域と学校が協働している活動のことを表す。来年度の予算要望では地域にも有益な活動を取り入れる必要がある。
 - ・特色ある学校や教育振興運動の予算ではないことの確認。
- 学校支援・地域連携・地域学校協働活動について
 - ・スキーボランティアの要望。
 - ・「雫石めぐり」を西山小学校の3年生と合同で活動した。



第3回学校運営協議会 令和6年2月26日(月) 15時45分 ~ 16時45分

- 次年度学校経営計画の承認
- 下半期の学校評価と学校運営上の課題について(校長より)
- 今年度の学校運営協議会の活動の総括について
- 次年度の学校運営協議会の活動について
- 委員の質疑応答と意見交流
 - ・学校評価で数値が上がっているのは先生方のご指導のおかげ。
 - ・地域と協働して行う活動がとても良いので、来年度もさらに継続していく。
 - ・コロナが5類になって子供たちはどのように変化したのか。
 - ・春木場駅掃除や明小ギャラリーなど子供のいない家庭や地域の方には刺激になっている。地域の方と春木場駅掃除ができると良い。



II 特色ある活動

～御明神をチョウセンアカシジミが舞う郷に～

デワノトネリコの苗木植

4月20日（木）御明神小学校4年生9名は町の天然記念物チョウセンアカシジミの繁殖を目指し、竜川河川敷に地域の方々の指導・援助の下、デワノトネリコを20本植樹しました。苗木は雫石町長山在住の関山房兵（ふさえ）さんから提供していただき、地域に住む春木場武実さんと瀧沢秀政さん（竜川の水と緑を守る会）、高橋良和さん（NPO法人環境カウンセラー）に、苗木の植え方を教わりながら、児童は50cmほどの苗木を植えました。

御明神小学校は地域学校協働活動（コミュニティ・スクール）で地域と協働しチョウセンアカシジミの保護活動に取り組んでいます。校舎の北側にあるデワノトネリコには毎年卵が産みつけられ、夏至のころには羽化し、短い期間ですが蝶が舞う姿が見られます。しかし、個体数が少ないことから、御明神小学校から地域に生息地を広げ、御明神地区の財産になっていくことを地域の方と目指しています。今回は学校の敷地内だけでなく校外（竜川流域）にも繁殖地を広げる試みです。

この日植えたデワノトネリコが、成長するには数年かかります。すぐに結果が分かることではないだけに、想いを共有し、次の世代に繋いでいくことが大切な取組です。

私たちは、デワノトネリコの葉っぱしか食べないんだよ！
御明神小のみんな、木を植えてくれてありがとう！！



しっかりと踏み固めるよ、ヨイショ、ヨイショ！



最後に、枯葉をかけて、完成！



御明神小学校北側「デワノトネリコ」の様子

御明神小学校 3～6年生

茶道教室を地域の方との交流の場へ

5月10日（水）、11日（木）、御明神小学校で茶道教室が行われました。3年生から6年生が、雫石町西根出身で盛岡市在住の山本ユキ子さんの指導のもと、茶道を体験しました。御明神小学校では、21年に渡り、茶道を通して日本の心を学び続けています。昨年までご指導いただいていた東野恵子先生に代わり、今年度は山本さんに茶道の指導をお願いしました。御明神地区の岩持斗季子さんと、雫石地区の熊谷幸子さんも着物を着て児童に手本を示してくださいました。



御明神小学校では3年生から授業の中に茶道を取り入れ、年3回ずつ4年間茶道を体験し、相手を思いやる気持ちを学んでいます。この体験は御明神小学校を卒業した子どもたちの財産になっていきます。



9月と2月に行われる茶道教室の際は、地域の方にもお声がけし、お手伝いをいただきつつ、一緒に美味しいお茶を飲みながら、日本の文化に触れてもらいたいです。（中崎校長先生談）

茶道は和の総合芸術です

御明神小学校

地域連携活動

橋場の文化祭を彩った児童の作品

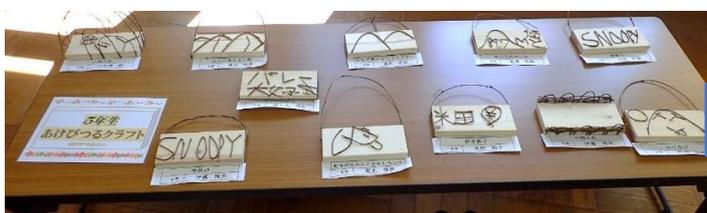
9月24日（日）旧橋場小学校で「第4回橋場の文化祭」が開催されました。木工体験教室や、地元作家の作品販売、もちまきなどが行われ、多くの方が訪れました。御明神小学校の児童の作品が展示された教室は、橋場小学校に児童が通っていたころを思い出させます。授業で制作した各学年の作品や夏休みの作品が展示されました。



御明神小学校の児童作品を展示

約30年前、橋場小学校で校長先生をしていた鳥畑貞子先生を招待し、抹茶の振る舞いコーナーを開設。先生の来訪を聞きつけた橋場小学校卒業生が集い、昔を懐かしみました。雫石中学校1年千葉那都希さんは御明神小学校の時に授業で行われていた茶道体験の成果を生かし、来訪者に抹茶を振舞いました。

旧橋場小学校は「木よう自習室」として地域に開放し、ふれあいサロンなど地域の人達の憩いの場として活用されています。橋場小学校に関わってきた人たちの思いが繋がり、閉校しても地域の学校としての役割を担い続けています。



抹茶をいただきながらプチ同窓会♪

一緒に雫石のいいところを見つけよう！

9月20日（水）、御明神小学校3年14名と西山小学校3年22名は「雫石のじまんさがし」に出かけました。お互いの地域のいいところを知るとともに、児童の交流を深めるという目的で今年度は2校合同で行いました。

「雫石のじまんさがし」

- ①上和野馬頭観世音堂 → ②岩手山神社 → ③小岩井一本桜 → ④小岩井農場牛舎・四階倉庫→
⑤道の駅雫石あねっこで昼食 → ⑥貝の化石採り

上和野馬頭観世音堂は、馬の健康や農作業の安全をお祈りする仏堂で、東日本大震災をきっかけに国の有形文化財に登録されました。昔の人の生活には馬が欠かせないもので、家族のようにとても大事に育てていたことや、昭和天皇の愛馬がこの御明神地区から献上されたことを、管理している岩持斗季子さんが教えていただきました。



とても賢い馬だったそうです

岩手山神社では宮司の笹田武彦さんと総代の篠村幸造さんがお話を教えてくれました。篠村さんが山中で湧き水を偶然見つけ、境内まで引いて水汲みを作り、毎日多くの人々が訪れる神社になっています。

安全に飲める美味しい水です



小岩井農場では佐藤康さんが国の重要文化財の牛舎や四階倉庫を見学しながら説明してくださいました。児童は、牛にまつわるクイズに答えながら、小岩井農場について楽しく学びました。

ここにはもうすぐ赤ちゃんを産むお母さん牛が居ます



「道の駅雫石あねっこ」の施設を見学した後、貝の化石採りを行いました。今から900万年前、雫石は海の底だったという説を体験できる場所が橋場の山の中にあります。児童は一列になり沢を登り山の奥に分け入りました。ハンマーとタガネを使い、岩を砕く両校の児童。しばらくするとあちこちから「あった！」「見つけた！」と声上がり、夢中で探していました。



橋場出身の千葉昇さんが、山道の草刈りをしてくださいました

魚の形の化石発見！



私は巻貝の化石を見つけたよ♪



春木場駅は地域と学校を繋ぐギャラリー

御明神小学校では橋場小学校と統合する前から、児童の作品のコピーを春木場駅の待合室に定期的に展示しています。作品を地域の方に見てもらうことにより、児童の自信にもなり、制作の意欲を高めるねらいがあります。春木場駅を利用している方からも「ギャラリーを見ていますよ」という声が届き、作品を通して学校の様子が分かって楽しいと好評です。9月1日からは夏休みの作品を展示しています。



電車を待ちながら鑑賞できます



春木場駅清掃

地域の方に気持ちよく利用してもらいたい！ 地域貢献活動

体育ボランティア委員会は年間 3～4回、春木場駅の清掃を行っています。地域の方への感謝の気持ちを込めて掃除することで、地域を愛する気持ちを育てたいと、夏場は駅のホームや階段の掃き掃除、トイレ清掃、手すり拭きを行い、冬は雪かきを行っています。

10月11日(水)、4～6年生8名の児童がほうきや雑巾を持ち寄り、掃除を行いました。委員長の伊藤謙進さんは、「お掃除はあまり得意じゃないけど、地域の方が安心して使えるために掃除しています」と話します。御明神小はこれらの活動で毎年JR東日本から感謝状をいただいています。ちょうど清掃をしている時に秋田新幹線こまちが春木場駅を通過し、児童たちが手を振って新幹線を見送る微笑ましい光景が見られました。田園を走る新幹線が見られることも地域の宝の一つです。



雑巾が苔で緑色だ！



ピカピカにするぞ～☆



こまちへ、
元気なでな～！



清掃や作品展示で春木場駅のイメージアップに貢献

地域の方が先生に！世代間交流会と感謝の会

11月29日、御明神小学校は授業参観日に合わせ、日頃よりお世話になっている地域の方を招き、世代間交流会と感謝の会を開催しました。

5,6年生は「縄ない体験」を行いました。今年は、御明神公民館を通じて地域の方に依頼し、8名の方がわらの提供、わら打ち、装飾の準備、縄ないの指導等に協力くださいました。午前中に御明神公民館でわら打ちし、縄をないやすいよう準備しました。

午後から行われた世代間交流会では、児童は6名の地域の方から教わりながら縄をない、リースにして松ぼっくりやバラの実をあしらいました。5年生の佐々木朔弥さんは「はじめは不格好だったけど、やっているうちに上手くなって楽しかった。」縄ない講師の木村久子さんは「子どもたちの上達に驚いた。自分がやるのと教えるのでは違い難しさもあったけど、今日は楽しかった！」と世代間交流の感想を述べました。



「わら打ち機」を使ってわら打ち作業をする小田島充さん



昔は、縄ないは子どもの仕事だったんだよ！



地域の方が用意してくれた木の実や常緑樹の装飾を選ぶ児童



教えてくれた地域の方と記念撮影する6年生

1・2年生



「いろいろなあそびフェスティバル」児童の手作りおもちゃ等でおうちの方と一緒に遊びました

3年生



「昔の道具を調べよう」地域巡りでお世話になった佐藤賢治さんが教えてくれました

4年生



「鉛筆削り、リンゴの皮むきに挑戦」地域の方や、おうちの方に見守られ、刃物を使って作業しました

茶道体験を通して 地域の方と児童が交流

1月31日(水)と2月1日(木)、御明神小学校で3~6年を対象に茶道教室が行われました。5月の茶道体験でもご指導いただいた、山本ユキ子先生、地域の岩持斗季子さん、熊谷幸子さんに加え、2月1日の5・6年生の茶道体験には三上友子さん、北島恵美子さんが参加してくださいました。茶碗を洗ったり、道具の準備をしたり、支援ボランティアとして協力してくださいました。初心者の三上さんも、茶道経験のある北島さんも、学校からのお誘いに「楽しみです!」と参加してくださいました。

茶道は抹茶、器、茶花、茶菓子、掛け軸、お香、所作など様々な日本文化の集大成だと教えていただき、児童は自分でお茶をたて、味わいました。

児童の体験後、ボランティアの方たちと教職員で茶道の奥深さを感じながら山本先生のたてたお茶をいただきました。



児童を見守りながら、一緒に作法を学ぶ三上さん(右)着物を着る機会が来て嬉しいと、和服で参加の北島さん(左)



6年生にとっては最後の茶道教室。4年間の経験が財産です

スキー教室 地域ボランティアの指導



2月8日(木)に岩手高原スノーパークでスキー教室が行われました。1学年はそり滑りを楽しみ、2年生以上は12のグループに分かれてスキーを学びました。

学校の教職員だけでは指導者が足りないので保護者や地域に依頼し、16名のボランティアを募ることができました。特に、地域からは3名の方が協力をしてくださいました。

ほぼ初心者の児童にとっては、リフトに乗ることも不安なことです。一人一人に合った指導をしてもらうことで、安心してスキーを学ぶことができます。

1年生も、ルールを守りながら安全にそり滑りをするためには見守る指導者が必要です。

今年度もたくさんのボランティアの方々にご協力をいただきながら、無事にスキー教室を終えることができました。



III 成果と課題

◎成果

- ・今年度も地域の方々にご指導をいただき、コミュニティ・スクール事業を実施することができた。何回か実施している活動では、地域の方々も児童とふれあうことを喜びと感じている。
- ・学校評価を運営協議会の方に定期的に開示することで、子供たちの成長を感じていただくことができた。

●課題

- ・学校行事や学級の実態に合わせて活動の見直しを行い、学習とのバランスを図っていく必要がある。
- ・これまでの活動では、地域の方を講師とした行事が多かったが、地域貢献をしながらお互いに成果がある内容を考えていく必要がある。

IV 次年度の計画

1 令和6年度の方針

地域に根差した教育活動の推進

2 重点事項

身近な文化や環境に関心をもち、地域の方々との交流を図り、郷土を愛する心情を育む。

3 実施内容

① 伝統や文化の教育（茶道）

地域の茶道講師1名、ボランティアを2～3名依頼し、各学期に1回ずつ茶道教室をひらき、日本古来の文化を学ぶことにより、児童や参加したボランティアの方々が茶道に触れることで所作や作法に興味をもち、地域への普及につながる。

② キャリア教育

地域で活躍する方を2～3名依頼し、主に高学年が3学期に学習をすることにより、地域で活躍する方々の話を聞き、児童が将来の夢や、地域への憧れの心をもち、後継者が育つ。

③ 地域学習（道の駅コラボ）

地域の商業施設で働く方を2名ほど依頼し、2学期から3学期にかけて地域を盛り上げる活動を考える。自分たちの住む地域を盛り上げることにより、地域活動が活性化する。

④ 地域学習（チョウセンアカシジミ・水田）

環境アドバイザーや水田の講師などを依頼し、1学期から2学期にかけて環境保全活動に関する学習を行う。児童が環境問題に関心を示すことで、地域の環境保全活動に参加する機会が増え地域の活動が活発化する。

⑤ 地域学習（探検）

地域の様子をよく知る方を講師に依頼し、2学期に地域めぐりを行う。特色ある町の様子を児童が知る機会ができ、地域の方々には児童の様子を知っていただき、手紙などを通じて温かい交流が図られる。

⑥ 学習支援（マラソン・スキー）

マラソン講師1名、スキー講師10名から、2学期から3学期にかけてスポーツの特質や技能を教えよう。スポーツの特質を幼少期から教えていただくことで児童が興味をもち、地域のスポーツ活動が活性化する。

令和5年度御所小学校コミュニティ・スクール実践報告集

I 学校運営協議会の開催

第1回学校運営協議会 6月1日(水) 18:00~19:00

今年度の学校経営等について

(1) 「ふるさとの良さを学び、ふるさを大切にしようとする心豊かな子どもの育成」を目指してどのような取り組みができるかを検討する。

- ・防災学習(消防団操法演習見学、消火、放水体験)
- ・ふるさと遠足(大村そば作り、鶯宿スタンプラリー)
- ・環境美化学習(地域ゴミ拾いなど)

(2) 検討事項

- ・多くの地域住民が気軽に関わることができる活動等を工夫する
- ・スクールガードを子ども達に周知する会の開催を検討する。
- ・コロナ5類移行に伴いどのような活動ができるか検討する。



(御所小学校第1回運営協議会の様子)

第2回学校運営協議会 10月12日(水) 18:00~19:00

1 上半期の学校経営について

(1) 「教育目標に関するアンケート」(保護者、児童の評価)や「まなびフェスト」の結果をもとに、成果や今後の課題、課題に向けた取り組みの検討

(2) 行事の振り返り

- ・ふるさと遠足
- ・スクールガード紹介式
- ・施設交流(特別養護老人ホーム 障害者支援施設)



(スクールガード紹介式の様子)

2 令和5年度の学校評価の計画について

- (1) 県の教育振興計画、町の教育振興基本計画を受けて御所小学校教育目標を設定。県の学校教育指導指針、御所小学校まなびフェストから評価アンケートを作成
- (2) クラウドサービスを利用して児童や保護者のアンケート調査を予定

3 学校運営協議会にかかわる今後の活動について

(1) 防災学習

- ・消防団操法演習見学(全校)
- ・放水体験(各学年代表児童)
- ・消防団との対決による消火体験(6年生)

(2) 環境美化学習(クリーン作戦)

第3回学校運営協議会 2月16日(金) 13:10~15:00 (授業参観日に予定)

1 授業参観

2 令和5年度の学校運営について

3 令和5年度の学校評価について

4 令和6年度の学校運営について

II 特色ある活動

～ふるさと遠足～ 地域の思い、学校の願い

御所小学校は開校当時から学年ごとに大村地区、南畑地区、安庭地区へ出かけるふるさと遠足を行っています。地域の方と交流したり、奉仕活動を行ったりすることで児童に地域への愛着をもってほしいという学校の願いと、子どもたちの声があると元気になるという地域の方の思いが合致し始まりました。学校運営協議会で活発にアイデアを出し合い、昨年からは新たに地域の方と鶯宿温泉ウォークラリー、大村小学校でのそば打ち体験などを実現させています。

2年生 そば打ち体験

2年生12名は旧大村小学校で、そば打ち体験を行いました。大村地区の村田徹さんと、上野新人さんがそば打ちの先生として、副校長先生と3人で朝6時半からそばの仕込みを行いました。児童は二八そばの塊を手や麺棒で延ばし、大きなそば切り包丁に緊張した様子で、先生たちに見守られながら慎重にそばを切りました。太かったり、細かったりの蕎麦はお土産として持ち帰りました。お昼には大村地区の宮林さん、村田さん、高橋さんがぶっかけ蕎麦にしてください、おかわりする児童がたくさんいました。

学校運営協議会委員でもある上野さんは「そば打ち体験で子どもたちの笑顔が見たい、大村小卒業生として閉校した校舎に子どもたちの声が響いているのが嬉しい」と話します。



上手だなあ！



おいしい！(^_^)



力を入れてまっすぐ切ろう



蕎麦作り作業の合間に、大村地区の吉田金さん（90）から昔語りを聞かせてもらいました。方言も交えた表現豊かな語りに児童たちは聞き入りました。

おかわりもあるよ！



3年生 鶯宿温泉の50年前にタイムスリップ

3年生18名は、鶯宿温泉に出かけました。雫石町観光協会の協力を得て、温泉街の手すり拭きの清掃作業を行った後、鶯宿温泉の足湯につかりリフレッシュ。鶯宿温泉開発株式会社が50年以上前の鶯宿温泉の写真を頼りに、現在の場所を探し当てるウォークラリーを作成していただきました。児童は6名の民生委員の方と一緒に正解の場所を見つけたらタブレットで記録しながら、鶯宿温泉6カ所の今昔を探し当てました。民生委員の方との会話もはずみ、終わった後は「楽しかった」という声がたくさん聞こえました。



この辺りだと思うんだけど



きれいにするぞ〜!

御所小学校 地域連携活動

消防操法見学会を開催しました

10月27日(金)御所小学校で防災訓練後、地元消防団(第2分団)による消防操法の見学会を行いました。この取り組みは、消防団に入っている保護者が消防操法を子どもたちにも見せたいという思いから始まりました。学校は防災教育として、消防団は地域防災を伝える為、お父さんたちは父親の真剣に活動する姿を見せたいというそれぞれの願いが合致し、令和3年度から始まり今年で3回目の開催となりました。

学校と、消防団、役場防災課が話し合い、昨年に引き続き6年生とバケツリレー競争を行いました。



地域での火災や災害などの緊急時に対応できるように日頃から訓練をしています。



防火服で放水体験

消防団も6年生も本気で挑んだバケツリレー対決!今年も2対1で消防団の勝利でした!



雫石町消防団
米澤 副団長

消防団はいざ災害が起こったとき、緊急に人を集め、地域を守る為にはなくてはならない組織です。私たちの活動を子どもたちや、親の方たちにも知ってもらいたい。助け合いの気持ちで活動しています。

御所小学校 地域貢献活動

きれいな御所を守りたい☆親子でクリーン作戦！

11月6日(月)御所小学校では、今年度2回目のクリーン作戦が行われました。この活動は全校児童が縦割り13班に分かれ、地域の清掃を保護者ボランティアと一緒に活動するもので、5月に続き2回目になります。

この日は10名の保護者ボランティアと一緒に、ファミリーランドでは落ち葉はき、御所保育所では窓ふきや石拾い、マラソン大会のコースにもなっている学校付近や、旧南畑小学校付近の道路ではゴミ拾いを行いました。上級生は下級生を気にかけてながら、声をかけあって掃除しました。

この時期は、ファミリーランドは落ち葉が芝生を覆っています。児童は、集めた葉っぱの山に体をうずめながらかき集めた落ち葉を、750ゴミ袋に詰め込みました。30分程の活動時間で、ゴミ袋10袋ぎっしりに落ち葉を集めました。

御所小学校では親子で楽しみながら、身近な地域の環境美化活動に取り組むことにより、より良い環境を作ろうという気持ちを育んでいます。



ファミリーランドでは落ち葉を集めて袋に詰めました



落ち葉集めてってなんか楽しい！！



御所保育園では窓ふき、石拾い、草取りをしました



III 成果と課題

1 成果

- ・学校経営等について委員の皆様へ承認をいただき、ご理解と協力をいただきながら学校運営を行うことができた。
- ・コロナ5類移行を受けて、多くの方と関わったり、学校外に出かけたりしての体験学習が可能になり、教育活動を充実させることができた。「ふるさとのよさを学び、ふるさとを大切に作る心豊かな子どもの育成」のためには、体験活動は有効であると実感できた。
- ・今年も「ふるさと遠足」では大村の蕎麦打ちや鶯宿温泉街の手すり拭き、ウォークラリーを実施した。学校運営協議会委員が地域や関係機関の方々に声かけを行い、たくさんの方にご協力いただき、地域の良さを学び、地域とつながる活動となった。次年度以降も実施していきたい。

2 課題

- ・老人クラブさんなど、新たな地域の方々とのつながりを強め、学校の教育活動の充実と共に、地域も元気になる運営を行うこと。
- ・「防災学習」では、操法見学や参加型の消火競争、放水体験を実施した。毎年続けていくために、学校運営協議会の中で振り返りを行いながら内容を工夫していくこと。

IV 次年度の計画

- ・今年度同様に3回の運営協議会において学校運営、学校評価について協議し、地域とつながりのある学校経営の推進。
- ・学校と地域のつながりを深め、学校も地域も元気になるように、多くの方が参加できるような呼びかけの実施。
- ・スクールガードさんとの紹介式の実施。
- ・「ふるさと遠足」での大村の蕎麦打ち体験、鶯宿温泉街の手すり拭き、ウォークラリーを継続、発展させること。
- ・子ども達が参加できる工夫を入れた「防災学習」を継続、発展。

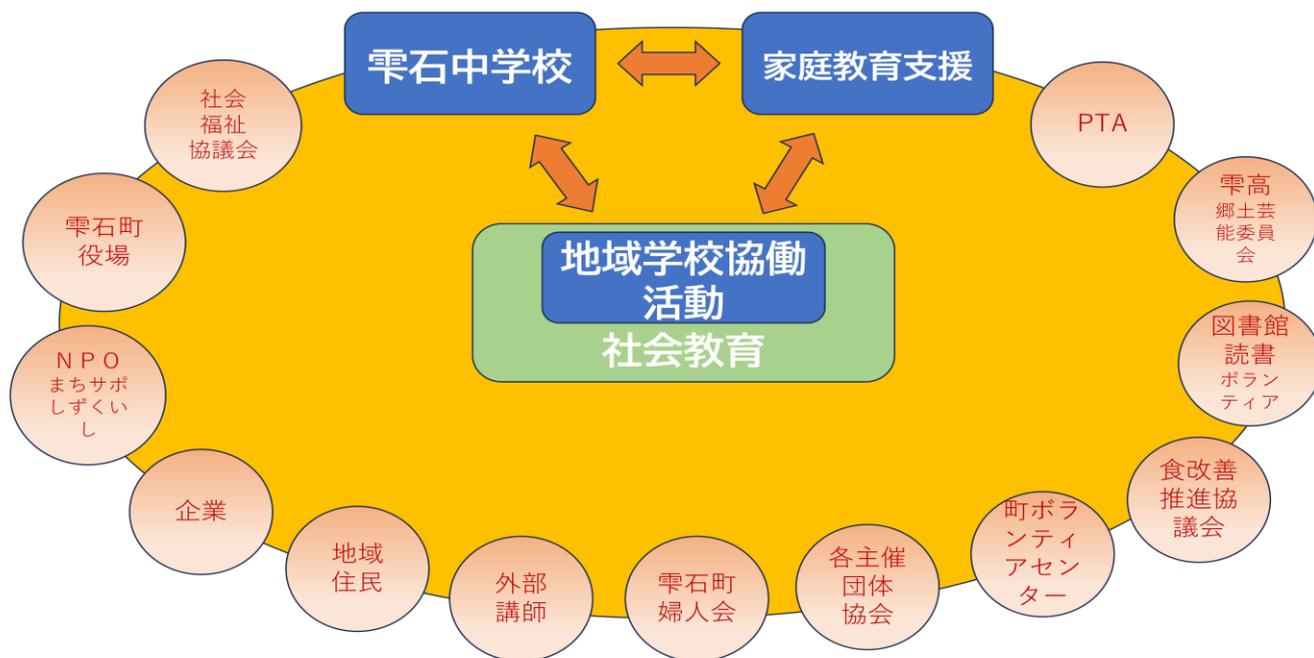
雫石中学校コミュニティ・スクール説明資料

令和5年雫石町コミュニティ・スクール 意見交流会

地域とともにある学校を目指して



雫石町立雫石中学校
教諭 及川 美幸

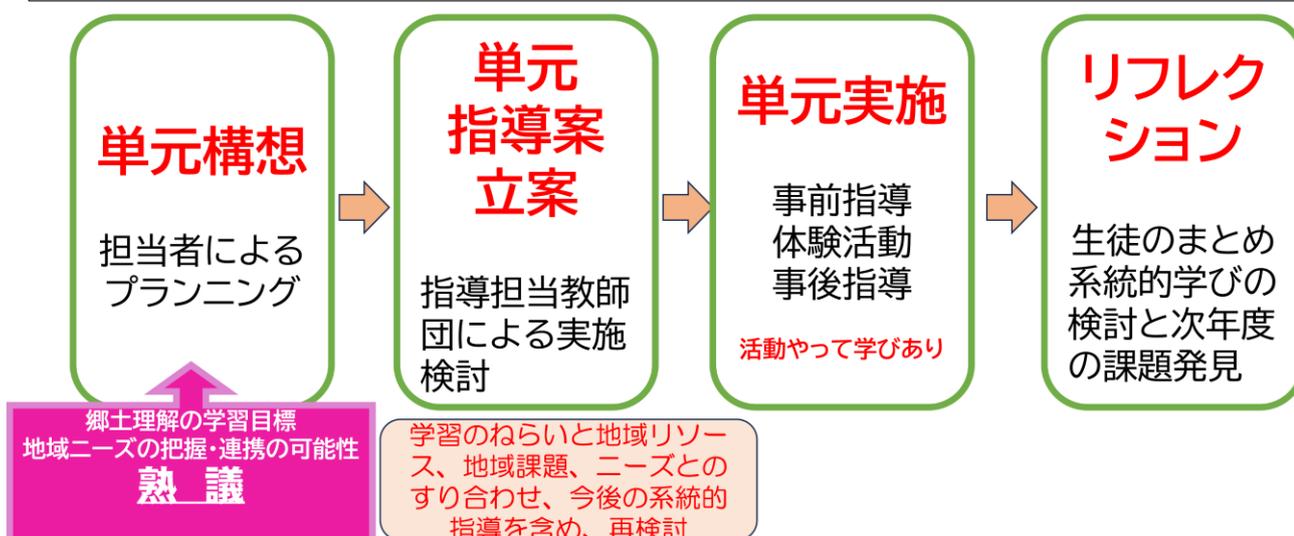


本校における地域と連携した学校活動



授業 総合的な学習の時間・教科学習

習得と活用の往還性のある学びを。社会性のある実の場における学びにおいて学習内容の知識・技能の習得を図ったり、活用を図ったりする。社会生活に即したリアルな相手意識・目的意識・場面意識のある学びを通じて習得状況に重層性を持たせる。



授業(例) 総合的な学習の時間・教科学習

総合的な学習単元名「まごころおはがき」

(雫石町社会福祉協議会事業名 白やぎさんホッとレター事業 連携事業)

- ・町内に住む独居高齢者約350世帯にむけ、暑中見舞い・年賀状を全校生徒がそれぞれの担当のお年寄りの方に送付する取り組み。年賀状は独居世帯+民生委員にも送付。
- ・今年で5年目。令和元年からスタート。(初年度は3年生国語・総合による取り組み+有志 活用先を社協に相談)
- ・令和2年、大変喜ばれた反響あり雫石町社会福祉協議会にて「白やぎさんホッとレター事業化、連携事業としてスタート。総合的な学習の福祉分野単元として全校生徒に位置づけ。
- ・はがきは日本郵政手紙の書き方指導事業により無料提供。不足分は社協より補填(令和5年日本郵政本社事業部より推奨事例としてセミナー参加者へ全国紹介)

当時の3年生の学習課題

- ・敬語の苦手さ
- ・相手や場面、目的に応じた表現に課題。言葉選び。
- ・住所を書けない
- ・公式な文書をペンできちんと作成することが不慣れ
- ・手紙を書く経験の不足

全校的共通課題としての認識

国語単元「まごころおはがき」

【学習内容】

- ・文法 敬語
- ・手紙の書き方
- ・書写内容 硬筆書写
様式のある文書の作成
様々なデザインと文字
字形を整えて書く

書簡指導による国語総合単元の実施と総合的な学習との合科的指導

活用についての相談

社協のニーズ

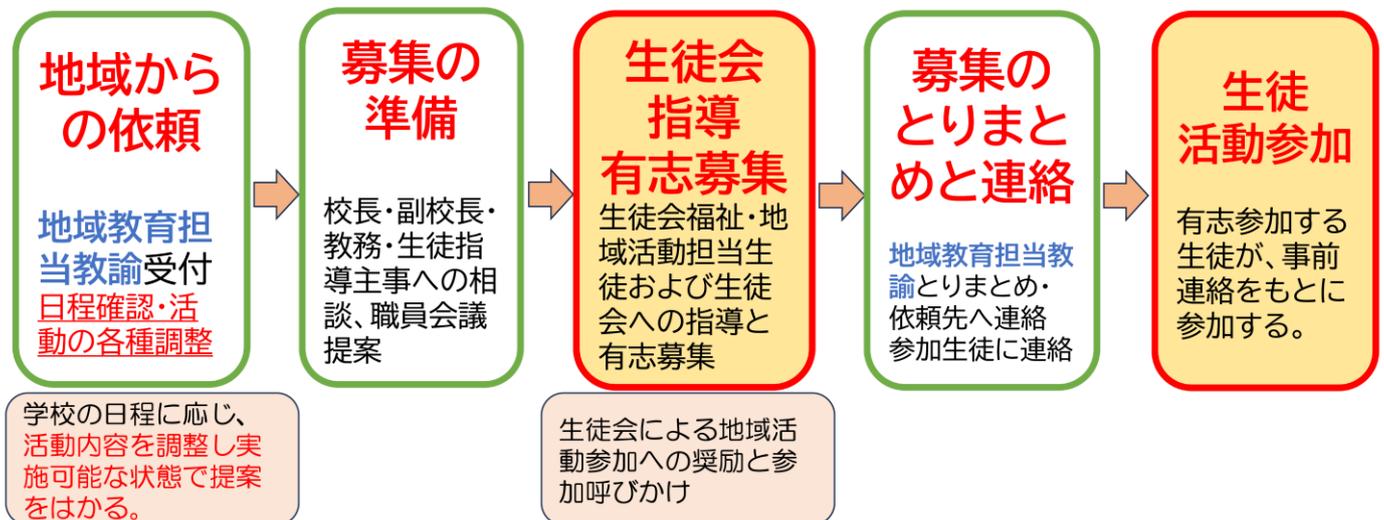
【事業内容】

- ・高齢者と若者の世代間交流
- ・地域民生委員との交流
- ・高齢者見守り
- ・地域コミュニティの形成

連携事業化

生徒会活動

福祉・地域活動担当教師と生徒会担当教師が中心となり、生徒会を指導。生徒会の呼びかけ主体。ボランティア活動、地域活動に生徒が自主的に参加する活動。SJHボランティアプロジェクトによる有志募集。





部活動 家庭部の例

家庭部の「**家庭**」＝「**地域における家庭生活・暮らし**」にとらえ、8年前より地域と連携した活動を開始。雫石の郷土性を重視。手間をかけ、ものを作り出し、健康に安全に食べ、家族が健康に安全に暮らす暮らしを作り出すよき家庭人・生活者を目指す活動。六次産業化実習、地域活動、高齢者との世代間交流、異年齢者との協働、福祉活動など地域と連携した活動は多様。地域に出る活動を行うために、校内での部活動は生活の知恵を培う多様な経験を重視。技能のスキルアップとチーム力、社会スキルを鍛える。



年間を通じて様々な関わり方がある活動



チームで稼ぐ



先達から教わる



雪かきボランティア最終日に打ったそばを持って訪問



隣所でわかちあう

一日のうちに様々な関わり方がある活動



先達から教わる

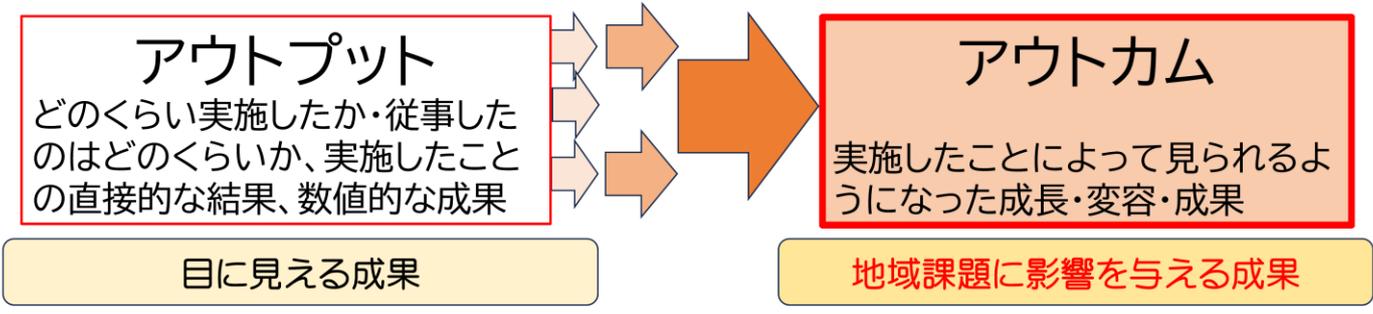


共に味わう



家庭部出身者のその後

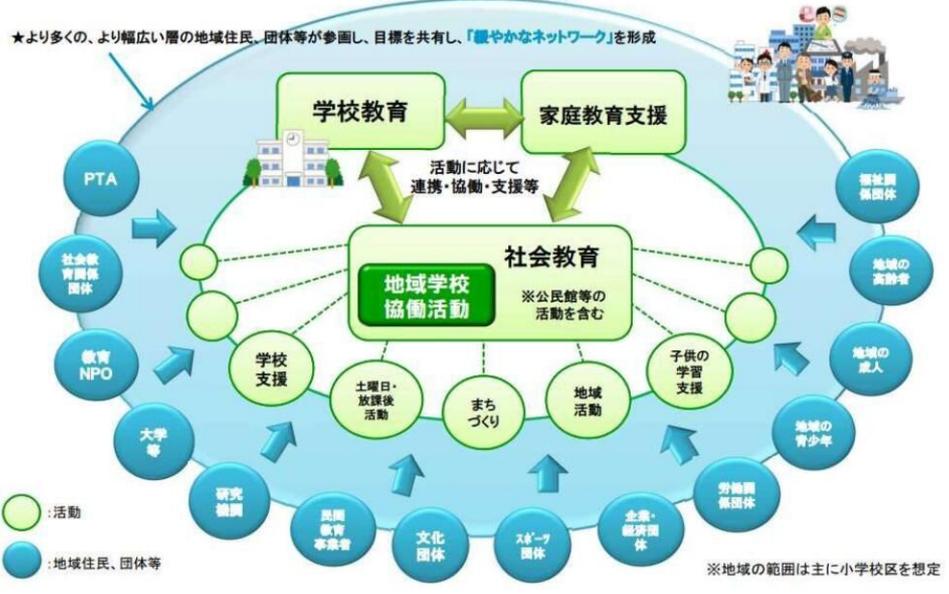
- 多くが栗石高校へ進学 生徒会活動等に意欲
- 保育士
- 葬儀社のフラワーアレンジメント担当
- 地元企業への就職(接客)
- 家業の承継と栗石活性化・まちづくりへ熱意を燃やし勉強中
- 家庭を持って母に
- 服飾アパレル関係
- ものづくり関係への就職
- などなど



- ・アウトプットの成果を、アウトカムの成果に転じていくためには長期的、継続的な取り組みが必要。
- ・持続可能な取り組みにしていくための共通理解が必要。
- ・持続可能な取り組みにしていくための無理のない計画が必要。
- ・学校ばかりがशीタてもらうのではなく、関わった大人や地域にとっても有益な計画を立てるため、気軽に熟議をしたい。（互いのニーズの交差点を探る）
- ・「それを行う」人・「それを行う」物・「それを行う」お金（予算）が必要。
- ・人と人がつながるコミュニティーを作りながら発展していく信頼関係性が必要。
- ・地域と関わる活動への参加への教職員全体、保護者の理解と協力と連携が必要。
- ・協力していただける地域人材の確保。（いつも同じ方だと負担がかかる、多様性を持たせる）
- ・組織は大切だが、融通が利く関係性で堅苦しくしすぎずに。
- ・リスクマネジメントへの対応。

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図） 資料3-3

◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
 ◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の再生・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。





いわて雫石アーチェリーセンター